

第 58 回技能五輪全国大会 「冷凍空調技術」 職種 職種連絡会議事録

1. 日時 2020 年 9 月 9 日 (水) 14 : 00~16 : 45
2. 場所 TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター 3F 「319 会議室」
3. 出席者 省略
4. 議題
 - (1) 出席者の紹介
 - (2) 第 58 回大会競技課題について
 - (3) 競技会場について
 - (4) 事務連絡
 - (5) その他
5. 配付資料
 - (1) 議事次第
 - (2) 出席者名簿
 - (3) 会場レイアウト (案)
6. 議事
 - (1) 出席者の紹介

当議事録の出席者名簿に差し替え願う。全出席者の自己紹介を実施。
 - (2) 第 58 回大会競技課題について

事務局より暫定の開催計画について説明。

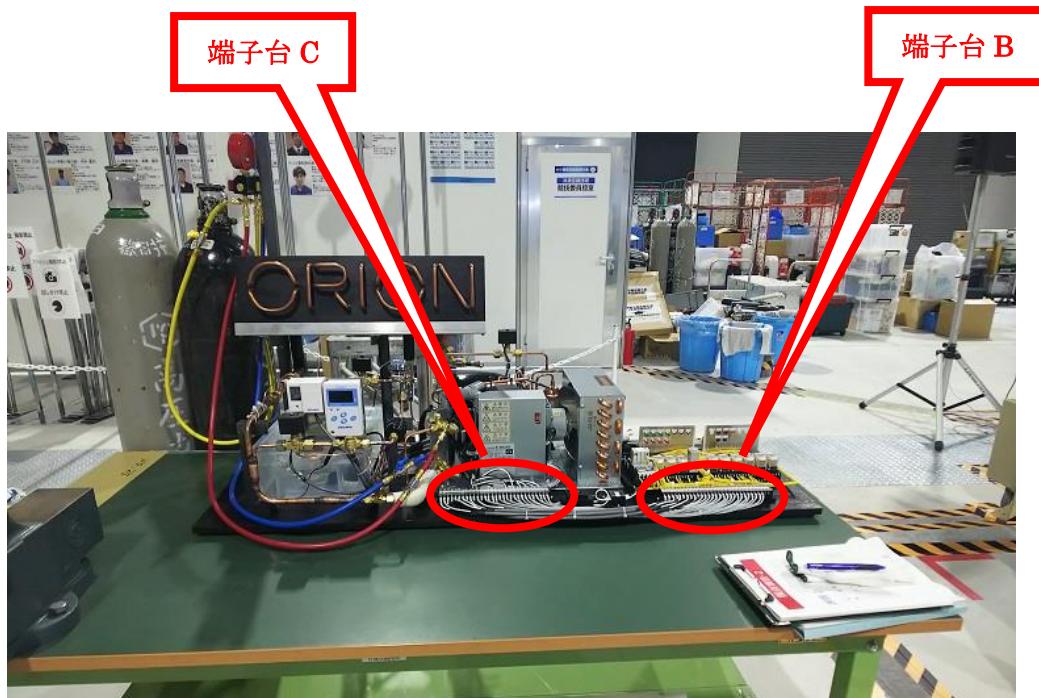
 1. 無観客での開催が決定し、それを受け愛知県が共催を降りたため、53 回大会以来となる厚労省と中央協会の主催となった。愛知県が負担する予算は、国からの予算増額により対応する。
 2. 無観客とは一般入場者を入れない事を想定。
 3. 今のところ、関係者として選手 1 名に付き付添者 1 名を検討している。
 4. 総選手数は約 1,000 名、付添者 1,000 名、競技運営関係者を含めて総員 5,000 名の入場制限を検討中。
 5. 入場者には 2 週間前からの体調を確認するため、特定様式を作成し提出してもらうことを想定。
 6. 入場時は体温チェック実施、マスク着用厳守とする。
 7. 選手の競技中のマスク着用は、職種毎の競技運営によって対応願う。

→冷凍空調技術職種は、競技中の立合採点で競技委員等とコンタクトするためマスク着用とし、作業中で暑い場合は顎（首）方向にずらして対応して欲しい。
 8. 当職種は、工具展開時の作業量と時間的制約により付添者が 1 名では足りない。選手 1 名に付き、付添者は最低 2 名を希望する。
 9. 万が一、感染者が出た場合の対応として、入場者の情報把握が必要なため事前登録者のみ入場可とし、入れ替え制の予定はない。日によって対象者を代えることは想定している。

以上、開催計画について。

以下は競技課題について

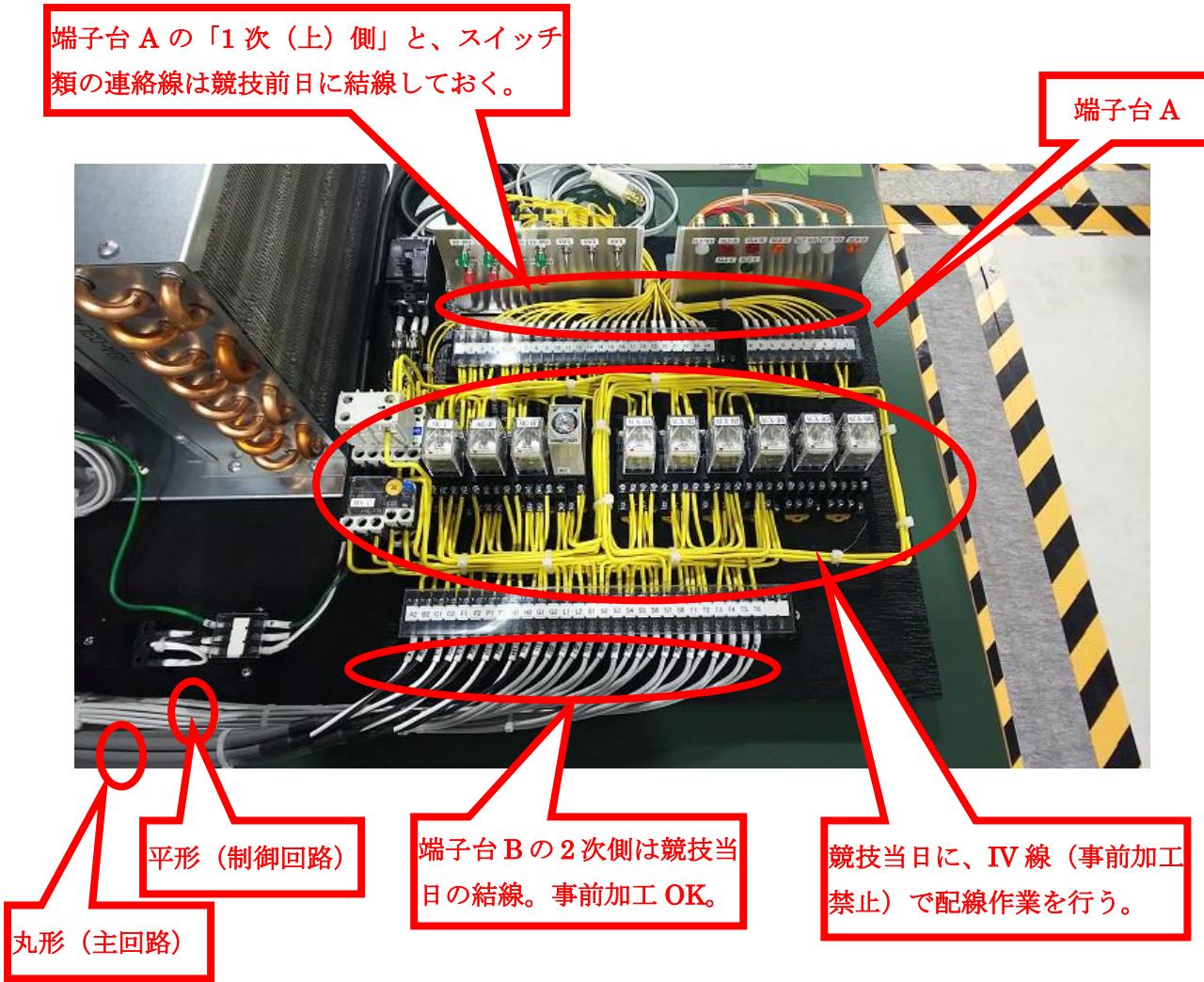
10. 今回の協賛（無償提供）の紹介。
- ・(株)鷺宮製作所 膨張弁、電磁弁、低圧圧力開閉器、電子サーモ、ドライヤ、サイトグラス
 - ・橋本総業(株) 競技用材料
 - ・(一社) 中部冷凍空調設備協会 冷媒回収機一式レンタル
- ※(株)鷺宮製作所からの協賛品は、明日 9/10 に中央協会から競技参加者へ発送予定。
11. 初めて参加する企業があるため改めて競技課題の説明を行った。
12. 競技前日に行う作業で、支給材料の確認や、器工具（特に計器類）ゼロ調整は確実に行うこと。
13. リークテスターを使用してのコンデンシングユニットのガス漏えい確認は、競技前日のみ可。競技中は発泡液により行うこと。
14. 冷媒配管施工図（課題図面 I-3）と液ガス熱交換器（課題図面 I-4）のカッコ内寸法は競技当日変更（6ヶ所）するので、対応できるように。
15. p5/10. 持参工具一覧最上部「スパナ」はトルクレンチ不可とする。
16. 同持参工具一覧の「圧力調整器」のアセチレン用は不要。仮設工事により各選手の作業エリアにカプラー受けとなっているため、ホースのみで OK。ホース仕様等は改めて周知する。
17. 同持参工具一覧の照明器具は、必要に応じて持参・使用可とするが、使用時に他選手に迷惑をかけない仕様とすること。参考として前回計測したところ机上で 300lx 程度。
18. 同持参工具一覧の窒素及び酸素ボンベの接続口は西日本仕様の「メス」受けとなる。東日本の選手数分の接続用アダプタ（オスーオス）は準備する。前回、返却しなかった選手が多数いたので、最後は返却するよう注意願う。
19. 同持参工具一覧のペットボトルは、飲料用及び、（希望する選手のみ）水槽への給水用である。課題提出時は水槽内の水を排水してもらうために灯油ポンプは必須となる。
20. 同持参工具一覧の踏み台は、作業台高さと身長の調整用であり、力が入りにくい等の理由により踏み台使用可としているので、使用する場合はガタつき等無いように堅牢な物とすること。
21. 上記 20.について、特に課題 II 配線作業時に、身長が高すぎて腰が曲がりっぱなしになることがつらいという例があり、配線制御盤の下部にかさ上げ用のボックス等の使用も可とする。
22. p6/10. 競技会場設備基準は、運営側で用意する基準であり、圧力調整器の数量「各 1」は、酸素用とアセチレン用を各 1 つ予備品として用意するという意味。
23. p7/10. 注意事項 1. に「配付資料の接写、撮影は禁止する」項目を新設。
24. 同注意事項 5. 「競技委員等以外の者との一切のコンタクトを禁止する」は目配せも不可。
25. 同注意事項の 22. 課題 I 提出時は、ホース内の残ガスを排気してから提出することを新設。
26. p8/10. の 1 ポールバルブの開閉状態についての表記を改めた。
27. 同 2 について、気密試験が終了したら、続けて真空試験を行うように指定した。
28. 同 4 の①「各自、事前確認を行う」の事前確認とは、競技委員等の立合不要の、選手自身のタイミングで冷凍機運転を行うことを指すので、立ち会いを求めるることは不要。
29. 競技終了後のポンプダウンは、採点の都合上作品を解体するため、しっかりと引き切って欲しい。必要に応じて数回行う。
30. 制御配線については、写真を参照のこと。



【写真はいずれも前回大会のもの】

端子台 C の「1次（上）側」と「コンデンシングユニット制御盤」の連絡線は競技前の結線しておく。





31. p10/10.の減点事例は、前回大会時に減点された実例も含んでいるので熟読のこと。
32. 「気密試験作業標準」及び「冷凍機運転確認作業標準」で、今大会からは立会者の競技委員等が作業指示をする方式に変更した。競技委員等の指示により作業を進めること。
33. 気密試験及び冷凍機運転確認時は作業時間外なので、立合中に競技委員等が他選手の対応をすることが考えられるが慌てないこと。
34. 気密試験作業標準⑦は、窒素プローブ（配管作業）状態から続けて気密試験に着手したことを想定しているので、プローブ用窒素の on-off を、ボンベの元コックの開閉により直接行っている者は、このタイミングで、元コックを開くと読み替える。
35. 課題図面 I - 20 制御盤仕様の「MS-C」の図面上、縦方向の寸法指定がないが、メールで周知したように任意とする。おおよそ図面どおりになつていれば OK。

以下質疑応答

Q1. 服装について、アームカバー（腕抜き）の使用は？

A1.OK。ただし、作業の邪魔にならない程度にフィットするものを使用すること。

Q2.けがきの色の指定は？

A2.なし。

Q3.端子台板配線要領の図 2 と、課題図面 I -20 の端子台 B の端子番号が合致していないが？

A3.端子台板配線要領の図 2 を標準としてください。(課題図面 I -20 が誤り)。

Q4.アセチレン接続口の作業台への入り込み(約 150mm) は、昨年度は面一だったが？

A4.競技委員等が現地入りしてからの指示により作業台を、選手側へ移動して面一とした。今大会も同一とする。

Q5.youtube の公開等の情報は？

A5.現在未定。分かり次第共有する。

(3) 競技会場について

36. 当職種のメイン会場での開催は、2004 年立ち上げ以来、57 回あいち大会が初であったが、おそらく今大会で最後となる。条例により可燃物を、展示場等へ持ち込むことは禁止されており、あいち大会では外部にアセチレンの集合装置を設置し、仮設配管で各選手へ供給することで対応したが、経費がかかりすぎるため、今後は公共の訓練施設等の実習場が考えられる。来年度の東京大会もメイン会場東京ビックサイトから遠方となるような話も聞いている。
37. 配付している会場レイアウト案は、「3 密」を避けるため、作業エリア相互を 2m 間隔とした場合、昨年度と同規模の作業スペースを割り振って最大 30 名となったものである。
38. アセチレンの炎調整について、他選手の状況による変化の具合の確認として、競技前日の工具展開時に昨年と同様のシミュレーションを行う。工具展開が終了してから行うので全選手に協力願う。
39. 搬入・搬出スペースは、4 トン車を横付けできるくらい余裕がある。搬入路に 5cm 程度の段差があるが、スロープを設置するので、台車等で転がすことは可能。
40. 同じホールに 8 職種が混在していて、騒音により指示の伝達等が十分にできない可能性があるため選手に注意願う。
41. ヤマト便の「JIT-BOX」は、日曜日の集荷はしないため、昨年度と同様に月曜日の対応は可能だが、月曜日は解体作業でバタバタしているため、午前中のなるべく早めの集荷を手配願う。

以下質疑応答

Q6.今年はホール C とあるが、搬入時はホール C に行けば場所は分かるのか？

A6.搬入口直ぐ近くなのでわかる。搬入については改めて案内がある。

Q7.愛知県が撮影等の協力をするとあるが、youtube 等の公開については？

A7.未定である。分かり次第共有する。

Q8.今大会の開閉会式は行うのか？

A8.今大会は無観客としたため開催しない予定。代わりに Web 等で成績発表を行うこと等を検討中

であり、主催者の厚労省の意向が決まり次第共有する。

(5) その他

42. 今大会の当初エントリー数 45 名で、このままだと来年度は 50 名を超える可能性がある。当職種の特徴である「競技中の立合採点」があるため、本来ならば選手 1 名に対して競技委員等を 1 名としたいが、実情は無理のため今の状態である。競技補佐員の招集も限界があり、事務局より入手した情報だと「協力員」という制度がある。出場選手関係者が、「競技中の立合採点のみ」協力してもらう制度で、昼食は用意するが、基本ボランティアである。過去にも採点業務に長けている出場選手所属専門校の指導員に同様の協力を得た例があるが、今後はこの制度導入を検討していく予定である。

43. 慣例の選手プロフィールの掲示については、無観客のため行わないこととする。

以上 (200917 井澤)